

おたふくかぜが流行中です。

2016.08.01

夏休みが始まり、ようやく暑くなりましたね。夏休み中はあまり流行する病気がなくて小児科は閑散としていることが多いのですが、今年はおたふくかぜの流行があり、心配です。

1か月ほど前から函館市内近郊でのおたふくかぜの流行が始まりました。全国的には2か月半ほど前から九州から始まりました。函館近郊での流行は5年ぶりのことです。

おたふくかぜは2ないし3週間の潜伏期のあと、耳の下にある耳下腺や顎下腺、舌下腺などが腫れる病気です。発熱はある場合もあるし、ない場合もあります。今回のように周りで流行している時期は診断が容易にできますが、流行がない場合には診断するのがとても難しい病気です。なぜならば、耳下腺が腫れる病気はたくさんあって、耳下腺の腫れた様子でこれはおたふくウイルスによるものと判断するのはとても難しいからです。診断に苦慮する場合には、採血をして抗体価の上昇を見たりして判断することがあります。

おたふくの時に心配なのは、罹った人の300人から1000人に一人の割合で高度の難聴になることがあることです。おたふくかぜにも治療法がありませんが、難聴にも治療法がありませんので、難聴になってしまったら一生難聴が続くこととなります。

子どもたちが小さいうちにかかる病気のうち、ワクチンで予防できるものはかなり増えてきました。おたふくかぜもその一つですが、公費接種になっていないためにワクチンの接種率はいまだに低迷したままです。

1歳を超えたときに1回、年長さんの時にもう1回の2回接種が標準の予防法です。ワクチンをしていればたとえ症状が出たとしても、難聴の危険性はとても少なくなるといわれています。

ワクチンで防げる病気で、自然にかかったほうが子どもにとってメリットがある病気は何もありません。今からでも遅くはないので、あなたの大切なお子さんにワクチンをしてあげてください。